

京都基本構想の策定及び 今後の展開（京都学藝衆構想）について

令和7年12月12日

京都市総合企画局 都市経営戦略室

京都市総合企画局 市長公室 政策企画調整担当

- 1 京都基本構想の策定について
- 2 「京都学藝衆構想」
～「夢中」がつなぐ、学び合いのコミュニティ～



1 京都基本構想の策定について



「都市の理想」の必要性...

- 世界の現状 … さまざまな変化が生じ、複雑化の一途を辿っている

<変化の例>

- ・ 経済合理性の追求とそれに伴う人間的な営みの衰退、AIをはじめとする技術革新
- ・ 気候変動の影響の顕在化、自然災害の激甚化
- ・ 社会的分断の顕在化、戦争・紛争の発生と継続 など

- 京都の現状 … 本物（ほんまもん）が失われてしまう危機すら感じられる状況になっている

<失われつつある本物（ほんまもん）の例>

- ・ 伝統を保全・継承する担い手
- ・ 伝統的な町並み
- ・ 京都ならではの生業のあり方
- ・ 生活文化や神事 など

「どういうまちでありたいか」という「理想」を持つことが一層重要に

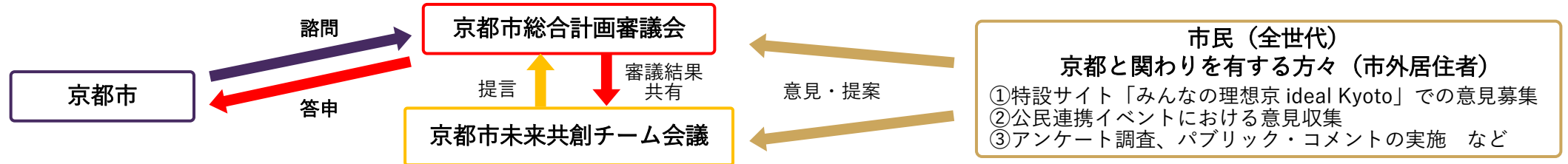
世界文化自由都市宣言 に立ち返り、「都市の理想」を示していく

- 京都のまちの理想とは？ = これからも京都であり続けること
そのためには...

- ・ 先人たちが紡いできた京都の「価値」を改めて共有し、
- ・ その「価値」を後世に伝え遺していくことが必要

「京都基本構想」 を策定

1 幅広い市民参加の下での策定



2 総合計画審議会 未来共創チーム会議の提言や市内外からの意見をもとに審議し、構想案を答申いただいた。

(1) 委員（◎…会長、○…副会長、☆…特別委員（起草者 ※未来共創チーム会議特別委員を兼務）※五十音順、敬称略、令和7年12月現在）

赤松 玉女	京都市立芸術大学名誉教授	○ 曾我 謙悟	京都大学公共政策大学院院長	藤野 敦子	京都産業大学副学長・現代社会学部教授
○ 安保 千秋	弁護士	高屋 宏章	社会福祉法人京都市社会福祉協議会会長	プラー ポンキワラシン	市民公募委員
小川 さやか	学校法人立命館副総長/ 立命館大学大学院先端総合学術研究科教授	田中 成美	市民公募委員	堀場 厚	京都商工会議所会頭
榊田 隆之	一般社団法人京都経済同友会代表幹事	貫名 涼	京都大学地球環境学助教	牧 紀男	京都大学防災研究所教授
阪部 すみと	Tsunagaryオフィス合同会社最高執行責任者	濱崎 加奈子	公益財団法人有斐斎弘道館館長/ 京都府立大学農学食科学部准教授	松井 道宣	一般社団法人京都府医師会会長
杉田 真理子	一般社団法人for Cities共同代表/ 都市デザイナー	原 敏之	日本労働組合総連合会京都府連合会会長	◎ 宗田 好史	関西国際大学国際コミュニケーション学部教授/ 京都府立大学名誉教授
鈴鹿 可奈子	株式会社聖護院ハッ橋総本店代表取締役社長	福富 昌城	花園大学社会福祉学部長		
☆ 野村 将揮	ハーバード大学デザイン大学院/（一社）京都哲学研究所 Executive Advisor兼Chief Strategist/ Yamauchi No.10 Family Office Executive Advisor/京都大学成長戦略本部				

(2) 審議会において重視された想いや考え方

- ① まちの名前を伏せても、京都の構想であることが分かるような、**京都にしかないまちの価値観を示す**ものにする
- ② この価値観は、先人たちの**日々の暮らし**の中で**育み、大切に継承**されてきた**普遍的**なもの
- ③ この価値観は、**京都が京都であり続けるために**、構想の期間である25年を超えて、**100年、200年先**にも伝えていく

3 未来共創チーム会議

京都市の価値や強み、直面しうる課題、今後どのようなまちをめざすべきかについて議論いただき、提言としてとりまとめ、総合計画審議会に報告いただいた。また、基本構想策定後の周知・浸透に係る議論も行っていた。

(1) 委員 (五十音順、敬称略、令和7年12月現在)

池坊 専宗	華道家・写真家	大竹 莉瑚	市民公募委員	都地 耕喜	EVER株式会社 代表取締役
伊住 禮次朗	茶道総合資料館副館長	杉田 真理子	一般社団法人for Cities共同代表/ 都市デザイナー	仲田 匡志	株式会社SOU 代表取締役/ U35-KYOTO プロジェクトマネージャー
大井 葉月	京都市職員（産業観光局）	田口 成人	京都市職員（都市計画局）	三川 夏代	株式会社メルカリ 『mercari R4D』

(2) これからの25年、京都のまちづくりにあたって大切にしたい思想・価値観（審議会への提言）

- ① 弱いつながりもデザインした「0.1 市民」を数多く作っていく
薄くつながる人々や人以外とも関係性を創り、彼らも京都の**まちを創っていく主体**として捉えてもいいのではないか
- ② 京都市民に解釈・行動を委ねる“無計画さ”や“余白”も大切
自ら考え、行動していくためには、**多様な価値観**を認め合い、それを受け止める**「余白」**がビジョンから感じられると良いのではないか
- ③ 脱成長・脱競争の社会へ。ベストだけでなくベターも認める
高いよりも程よく、速いよりも丁寧に、完成よりも未完・終わりがなく、競うよりもそれぞれの時に混ざりあう、といった**一元的ではない目線**を持つことが必要ではないか
- ④ 誰もが“育む・支える”まなざしを持つ
ビジョンでは、特にこれからを生きる**若者、子どもたち**や**弱い立場の人**の視点が大切ではないか
- ⑤ 超長期目線で考える
未来は今と過去の積み重ねであり、1000年前から紡がれてきた**京都独自の価値観に立ち戻る**ことが大切なのではないか。

「都市は、理想を必要とする」という一文に始まる、京都市の最上位の都市理念

都市は、理想を必要とする。その理想が **世界の現状の正しい認識** と **自己の伝統の深い省察** の上に立ち、**市民がその実現に努力** するならば、その都市は 世界史に大きな役割を果たすであろう。われわれは、ここにわが京都を世界文化自由都市と宣言する。

世界文化自由都市とは、全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市 をいうのである。

京都は、古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都であるが、今日においては、ただ過去の栄光のみを誇り、孤立して生きるべきではない。広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市 でなければならない。われわれは、京都を世界文化交流の中心にすえるべきである。

もとより、理想の宣言はやさしく、その実行はむずかしい。われわれ市民は、ここに高い理想に向かって進み出ること静かに決意して、これを誓うものである。

序文

基本構想に通底している京都独自の3つの価値を示す。

第一章 京都基本構想策定の背景

時勢^{じせい}が複雑化の一途を辿る中で、世界文化自由都市宣言が掲げる「都市の理想」にいま一度立ち返り、京都市とわたしたち京都市民の今後四半世紀の在り方^{ありかた}を展望するものとして、本基本構想を策定することを示す。

第二章 京都のかたち（※ 世界文化自由都市宣言の「自己の伝統の深い省察」に対応）

序文で示す3つの価値が生まれた背景、歴史的経過を示したうえで、それがいまを生きるわたしたち京都市民の暮らしの中に受け継がれていることを示す。

第三章 世界・日本・京都市のいまと未来への課題（※ 世界文化自由都市宣言の「世界の現状の正しい認識」に対応）

世界、日本そして京都市が直面している、またこれから表面化しうる課題や危機等を示す。

第四章 わたしたち京都市民がめざすまち

序文で示す価値を未来に受け継いでいくため、3つの価値に紐づける形で、9つのめざすまちの将来像を描いている。

第五章 京都を生きるわたしたちのこれから（※ 世界文化自由都市宣言の「理想の実現に向けた市民の努力」に対応）

このまちで日々の暮らしを営む京都市民はもちろん、京都市とさまざまな関わり方を有する方々も広く「わたしたち京都市民」として捉え、そうした人々と事業者や団体、行政、市会とともに、これからのまちの基盤を築いていくことを示している。

1 京都が未来に受け継いでいくべき3つの価値（序文）

人には人柄があり、国には国柄があるように、まちには「**まち柄**」がある。
「まち柄」とは、そのまちが長い歴史の中で大切に育み、伝え遺してきた価値

○ 京都の「まち柄」とは、**歴史と文化、自然との共生、人とのつながり**の3つ

① 歴史と文化から、人としての豊かさを見つめ直していく

（歴史と文化を介して人間性を回復できるまち）

- ・ 1200年以上の歴史の中で、お祭り、**藝道**、**工藝**、神社仏閣、庭園といった文化が育まれてきた
- ・ これらの文化は、このまちでくらす人々が伝え遺してきたもの

➡ だからこそ、いまを生きるわたしたちは、京都の**歴史と文化を次の世代**に引き継いでいくことが大切

② 自然と謙虚に向き合い、共生する姿勢を大切にしていく

（自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち）

- ・ 京都は、山々に囲まれ、鴨川・桂川・琵琶湖疏水、井戸水といった豊かな水に恵まれている
- ・ この自然が、人々の生き方や美意識、信仰といった精神文化を育んできた

➡ だからこそ、わたしたちは**自然の中を生きる命の一つ**であるということを改めて意識することが大切

③ まちを支えてきた「つながり」を未来につなげ、世界とともに歩んでいく

（自他の生とともに肯定し尊重し合えるまち）

- ・ 京都には、町内会や学区、お祭り、お稽古事、登下校の見守りといった人と人との温かい「つながり」が残っている
- ・ こうしたつながりが、長期的な共生の基礎となる「信頼」をつくってきた

➡ だからこそ、互いの**個性や文化的背景を尊重し、つながりを広げていく**ことで、世界の平和に貢献していくことが大切

2 わたしたち京都市民がめざす、9つのまちの将来像（第四章）

序文が示す価値を未来に受け継いでいくため、それぞれの価値に紐づける形で9つのまちの将来像を描く

※ わたしたち京都市民とは...

市民の皆様はもちろん、事業者、団体、行政、市会、京都とさまざまな関わり方を有する人々を含む概念

歴史と文化を介して人間性を恢復できるまち（第一節）

① 本物（ほんまもん）を追究・創造し続ける

短期的な利益のみを求めるのではなく、市内外の人々と積極的に連携・協力しながら、ほんまもんを創造し続けることで、まちの活力や基盤としていきます。

② 世界の文化と交流し、新たな文化を創造し続ける

世界の人々と交流を重ねながら、新しい文化を創造し、またその文化を受け容れることで、世界へと活躍の場を広げるとともに人々に選ばれるまちにしていきます。

③ 「夢中」と「感動」に^{あふ}溢れ、学び続けられる

未来を担う子どもや若者をはじめ、このまちの至るところに息づく歴史や文化に触れられる環境を整えていくことで、だれもが学び続けられるまちにしていきます。

④ ^{へいおん}平穏と^{せいじゃく}静寂のもとで自己と世界に深く向き合える

あらゆる分断を乗り越え、尊重し合えることを再確認できるまちであり続けることで、世界の平和と共栄に貢献していきます。

自然への畏敬と感謝を抱けるまち（第二節）

⑤ 謙虚に自然と関わり続ける

歴史と文化を形づくってきた自然の恵みを大切にするとともに、自然の中を生かされている命の一つであるという謙虚さのもとで、日々の暮らしを営み、自然と共生するまちにしていきます。

⑥ 災害や感染症などの危機からしなやかに立ち直る

歴史の中で培ってきたしなやかさを保ち、さまざまな主体と連携・協力しながら、これから生じうる危機に備え、対応する術を探求し、立ち直ることができるまちにしていきます。

自他の生とともに肯定し尊重し合えるまち（第三節）

⑦ 多層的でゆるやかなつながりが続く

住民自治の伝統を大切にしつつ、肩書や立場を超えて、さまざまな人々とつながりを紡ぎ続けることにより、誰もが安心して暮らし、愛着を抱くことができるまちにしていきます。

⑧ 支えあいの中で日々の生活を営める

互いに支え、支えられる関係の中で、誰ひとり取り残されることなく、自分らしく、安心して安全に過ごすことができるまちにしていきます。

⑨ ひとりひとりの個性や価値観を尊重し合える

性別や国籍などに関わらず、互いを認め、尊重し合うことで、すべてのひとが個性を発揮し、それぞれが望む生き方や暮らし方を実現できるまちにしていきます。

3 めざすまちの実現に向けて（第五章）

京都基本構想が強調している京都のまちの特長とは、

- 世代や立場、文化的背景などを超えて、さまざまな人々が交流してきたまち
- それぞれが力を発揮するとともに、互いの違いを受け容れ、支え合ってきたまち

要約すると... 京都のまちは、**人との連なり**によって形づくられているということ

市内に居住する京都市民はもちろん、

- 通勤・通学される人々、観光に来られる人々
- 転出した後も京都に愛着を抱いていただいている人々
- かつて観光で京都を訪れた経験のある人々
- 京都に対して憧れを抱いてくれている人々 など

京都とさまざまな関わり方を
有する人々（＝0.1市民）

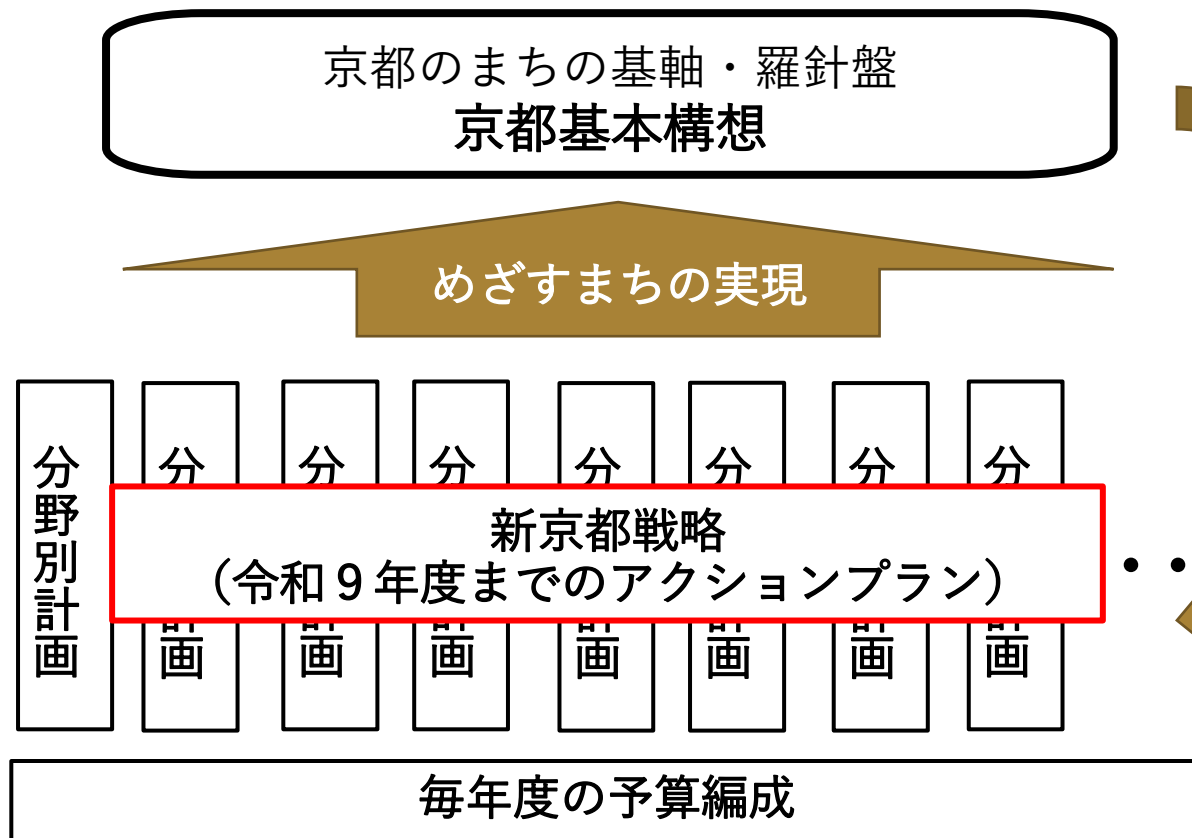
行政は、皆様の意見や提案を真摯^{しんし}に受け止め、自らの責務（＝住民の幸福追求、福祉の向上）を果たしたうえで、多様な主体とともに「居場所」と「出番」を創り出し、**まちづくりの基盤**を築いていく

○ 未来への問いかけ

序文が示す 歴史と文化、自然との共生、人のつながり の3つの価値を土台に、今後直面する課題に対して、多様な主体とともに、**対話**と**議論**を重ねながら、**理想の実現を希求**していただきたいという想いを込めたもの

基本構想の策定を機に、日々の暮らしの中で、京都が受け継いできた価値に思いを巡らせ、これからの**京都のまちのあり方**について、ともに考えていただきたい

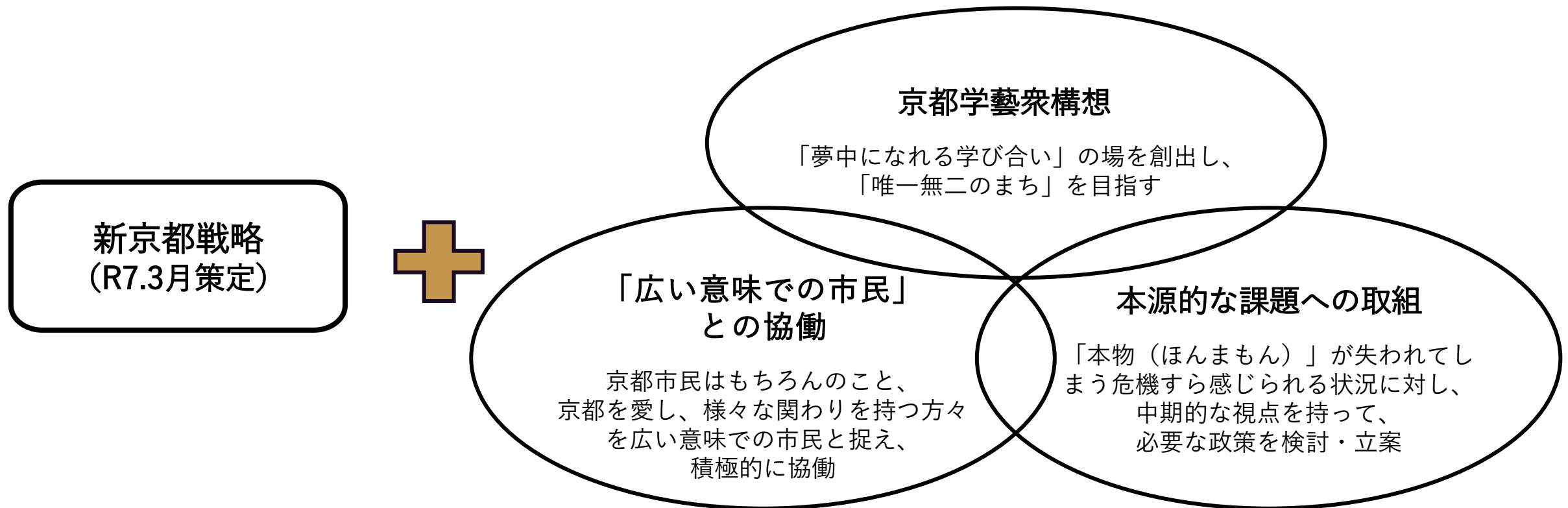
- 今後、京都基本構想を拠り所として、政策を磨き上げ、新京都戦略や分野別計画、毎年度の予算編成に反映、必要な方策を具体化し、基本構想が描くまちの姿を実現。



基本構想の反映・具体化

- 新京都戦略
令和9年度までに取り組む政策、政策を推進するためのしごとの仕方改革、財政・組織の今後の方針を示す、分野横断的なアクションプラン
- 分野別計画
政策分野ごとに方針や取組等をまとめた計画

- 京都基本構想は、京都の本質的な価値・魅力を示すとともに、伝統を保全・継承する担い手、伝統的な町並みや生業のあり方、生活文化など、長い年月を掛けて京都の先人たちが日常の中で大切に育み、紡いできた「本物（ほんまもん）」が失われてしまう危機すら感じられる状況にあることを示した。
- 計画期間の先も見据え、京都の本質的な価値・魅力を次世代に継承し、更に高めていく視点で政策等を磨き上げ、新京都戦略を改定する。





2 「京都学藝衆構想」 ～ 「夢中」がつなぐ、学び合いのコミュニティ～

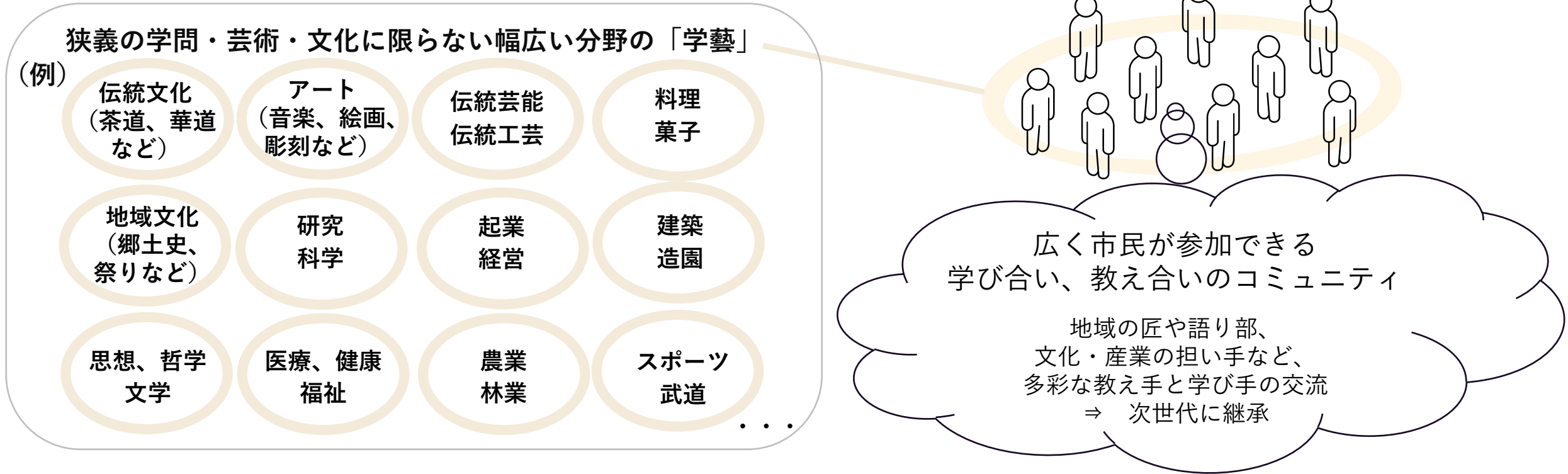


京都の多彩な魅力や価値に触れられる
「夢中になれる学び合い」の場を創出

幅広い世代が共に学び合うことを通じて、
大切に育み、紡いできた文化や産業の次世代への継承・新たな魅力発信、
子どもたちから年配の方々まで世代を超えた交流やコミュニティ活性化につなげる



京都への愛着を醸成し、深めていただき、
京都市民や国内外の人々から愛される
「唯一無二のまち」を目指す

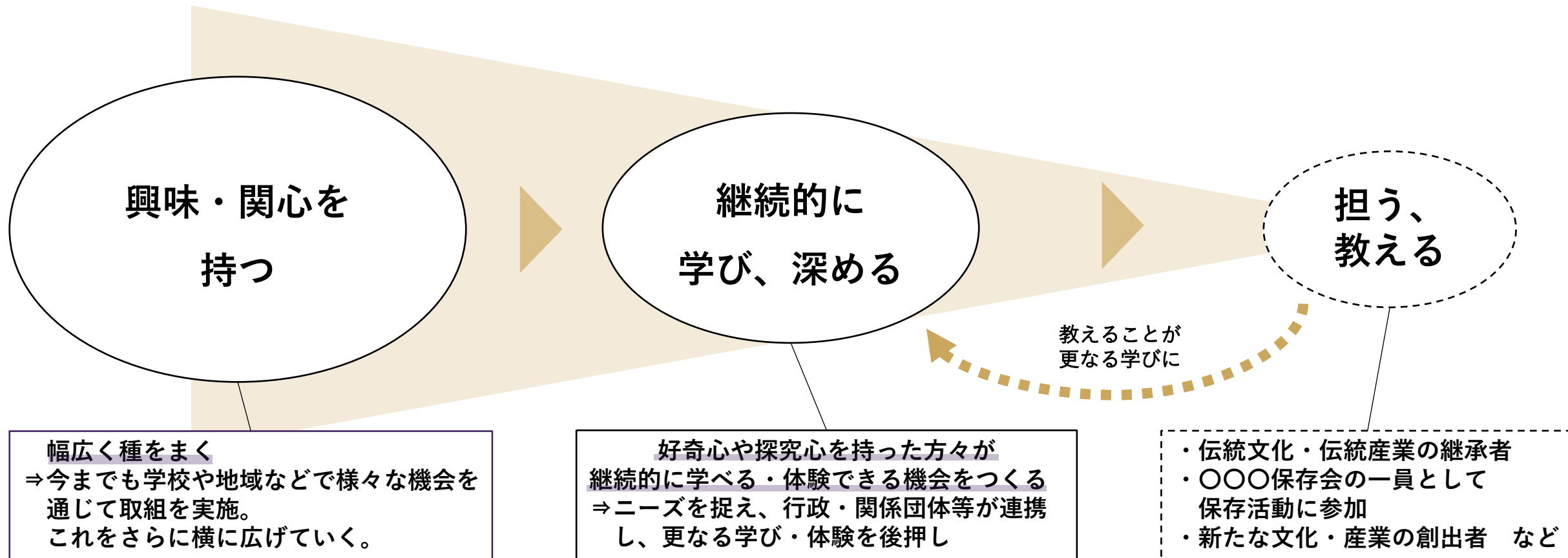


人と人、次世代への継承といった「つながり」を重視

京都は、趣味、習い事、商い、祭事などを介して、ゆるやかでひらかれたつながりを紡ぎ続けるとともに、互いに支え合って歴史と文化を紡いできたまち。

このひらかれたまち柄を踏まえ、多様な技芸や技能、見識、経験を磁力として人を惹きつけ、学び合うことで、京都の魅力や価値を次の世代につなげていく方々の連なりが「京都学藝衆」

子ども、若者を軸に、大人も巻き込みながら幅広い世代に向けて多様な学びや体験の機会を提供し、次代の担い手育成につなげる。



交じり、学び合う場

学校を起点とした関わり
⇒持続可能な施設管理体制のもと、
学校という場を地域に開く

学校教育の場

放課後の場

多様な活動の場

部活動の
地域展開

身近な地域での関わり



地域施設（児童館、青少年活動センター、
図書館、区役所、地域文化会館等）



神社仏閣



公園

人と場を結ぶ

興味・関心を惹く
企画の実施

身近な学びの場の
拡充からスタート。
ニーズを踏まえて
次の展開を検討

区Hub

事業課

更なる学びへの
ニーズ

ニーズへの対応
（深い学び、
継続的な学び）

学藝を取り巻く 人のネットワーク

関係団体

文化芸術、伝統産業、大学、
生涯学習、スポーツ、
地域企業、研究センターなど

関連事業

*** in Residence など

京都
学藝衆

関係者同士の
連携

本部機能（今後、体制等も含めて検討）

- 地域の団体等と協力した継続的な学びの機会を創出
- 国内外の人を惹きつけるフラッグシップ講座
- 地域や本部での実施事例の集約・広報
- 人材交流（学び合いのコミュニティ、京都ファン等）

「太秦で学ぶ 映画と殺陣の世界」（右京区役所）

【日程】 3回の連続講座

令和 7 年12月12日（金）
令和 8 年 2 月 8 日（日）
22日（日）

【場所】

右京区役所
高津商会（Kouzu Shokai）
仁和寺

【講師】

中島里佳氏（高津商会プロデューサー）
柳裕章氏（映画監督）
清家一斗氏（殺陣師・東映剣会）

【内容】

無声映画上映会、映画監督による映像制作体験、殺陣師によるアクション演出体験と小道具体験など、「映画のまち」である太秦を舞台に日本映画の奥深さを味わえる連続講座



「語らずにはいられない、 社寺建築に宿る知と美の体験」（左京区役所）

【日程】

令和 8 年 1 月 2 5 日（日）

【場所】

三千院往生極楽院
勝林院
左京区役所大原出張所

【講師】

横川総一郎氏
（有限会社匠弘堂代表取締役）

【内容】

社寺建築の基礎知識や歴史、伝統的な技法に関する講義のほか、フィールドワークとして、古くから比叡山の影響を受けてきた三千院往生極楽院と勝林院を巡り、宮大工の視点で、見どころを教えていただく。社寺建築の計算し尽くされた奥深い魅力に触れ、学んだことを語らずにはいられない特別な学習体験を提供





ご清聴ありがとうございました。

本件に関する問い合わせ先：

京都市 総合企画局

都市経営戦略室：０７５－２２２－３０３０

市長公室政策企画調整担当：０７５－２２２－３０３５